

no. 3

INTERIOR DESIGN

家具デザイン会社・社長



PROFILE

家具デザイン会社・
MAKE AND SEE 社長

まつお・しんのすけ

松尾 真之介さん (43歳)

松尾さんの専門学校時代

出身校：中央工学校／インテリア工学科(現インテリアデザイン科)／ファニチャーデザイン専攻
学んだこと：家具や雑貨など生活空間のデザイン・製作。基礎製図、基礎(家具)製図、レンダリング、建築法規、美術・デザイン概論、家具制作、インテリア施工・積算、コンピューターグラフィックスなど

松尾さんの社会人生活

今の仕事：家具のデザイン設計／製造を行う会社の社長
仕事の概要：レストラン、ホテルなど、それぞれの場所に合った家具の提案を行う。一つのプロジェクトには、打ち合わせ、プランニング、現場視察、図面製作、進行・予算管理、納品といった業務があり、そのプロジェクト全体のマネジメントも行う。社長としては、社員の採用・育成、資金繰りやITインフラ整備なども大切な仕事
仕事の経験年数：21年
社名の由来：「MAKE AND SEE」は、中国語で「大丈夫! 問題ないよ!」を意味する、「没关系(メイグアンシ)」の読み方を英語で当て字にしたもの。中国でビジネスを行うことも多い松尾さんが楽しみながら考えた社名



私の選択

16歳
高校入学
私立長崎鎮西学院高等学校入学。柔道部所属。

22歳
専門学校卒業・就職
卒業後、家具製造輸入販売・展示会などの内装工事の会社、(株)秀光に入社。配属は営業。

37歳
独立・起業
2013年に、(株)MAKE AND SEEを設立し、独立・起業。

18歳
高校卒業・海上自衛隊入隊
モノづくりを追求するため美大に行くか、柔道が強い大学に行くかと進路に迷っていた。しかし父の経営する会社が倒産し、経済的に困難となり、大学進学を断念。大学に進学するための費用を貯める目的で、海上自衛隊入隊。

27歳
転職
特注家具をやりたくて(株)コンプレックスユニバーサルファニチャーサブライに転職。“社長業のノウハウ”などさまざまな経験を積んだ。営業でありながら、プランニング・コーディネート業務、プロジェクトマネジメント、人材採用、社内システムなど何でも行った。

20歳
専門学校入学
美大進学を考えたが、美大進学にはそのための予備校通学が1年必要。海上自衛隊で過ごした2年を足すと、自分は新卒に比べて就職が3年遅くなってしまふ——そこで、早く技術が身に付き早く卒業できる専門学校を選択し、中央工学校／インテリア工学科(現インテリアデザイン科)に入学。

25歳
転職
オリジナル家具やブランドの企画・開発・販売を行う(株)エーディコア・デバイスに転職(営業職として)。

現在
今の仕事
社員数は家具設計デザイナーなど約10名。中国、ベトナム、カンボジアなどの海外へ、商談や視察に行く機会も多い。

仕事のおもしろさ

私たちが提案してできた“空間”や家具が、
たくさんの人に喜んで使ってもらえること

私は、ホテルやレストラン、ブライダル施設といった商業施設などの家具を提案・デザイン・製作する会社を営んでいます。そうした特注家具と、既製品の両方を扱っていますが、“1社でデザイン・プランニングから製作まで行える会社”は、日本ではほかにほとんどないのが自慢。社員は10名ほどいますが、**彼らと力を合わせてモノづくりの最前線に挑むことが私の喜び**ですね。また、依頼してくれたお客さまやインテリアデザイナー、“私たちが携った空間(ホテルなど)”で時間を過ごした方々から、「雰囲気よくなった!」「イメージしていた以上!」などと言ってくれるのもうれしい。**身近にある家具というモノで、たくさんの人を笑顔にできる素敵な仕事ですよ。**



Q AND A



Q. 専門学校では、
どんな勉強をしたの？

A. 1年のときは基礎製図、基礎造形などのデザインや素材の基礎を学び、2~3年はファニチュアデザイン専攻に進んで家具を設計して作る授業を受けました。「家具の三面図」を手書きでひたすら何枚も描くという授業もありました。パソコンを使ってデザインする現在でも、初めは手書きでアイデアを形にすることが多いので、その経験が役に立っています。



Q. 学校の授業で
一番大変だったのは？

A. 1年の基礎製図の授業です。木造から鉄筋コンクリート造(RC造)までさまざまな建築物の建築図面を描きますが、最初は描き方がよくわからないままだったので、ちょっと大変でした。1年ではこうした基礎製図や構造計算などを「広く浅く」学びました。2年から自分の興味ある内容(専攻)に集中していけるので、そこからは楽しかったかな。

Q. インテリア工学科(現)を
卒業した人の進路は？

A. 卒業してインテリアデザイナーになる人もいれば、家具設計デザイナーになる人もいます。就職先は、一般企業やアトリエ系設計事務所などさまざま。そうした仕事を何社か経験して、独立・起業する人もいます。また、私のように営業職として採用されて働いている人も半数ほどいるのでしょうか。

Q. 専門学校時代に
「成長できた」と思ったことは？

A. 高校との違いでいうと、高校は「自分のための勉強」をするところ。しかし専門学校は「誰かのために、何をするかを勉強」するところだと思います。経済社会、ビジネスに参加していくために必要な知識や技術を学ぶ場ですね。大学と比較すると、専門学校は実務をきっちり学び、大学はより概念的な部分を学ぶという印象を私は持っています。



進路選択をする高校生の皆さんへ

“失敗を事前に完全回避する方法”はない

私は、仕事をするうえでいろんな失敗を経験してきました。何をどれだけ学んでも“失敗を事前に完全回避する方法”はありませんから、起きてしまった失敗をどうやって挽回し、相手の信頼を回復するかを一生懸命考えて実行に移すことを大事にしています。おそらくその積み重ねは、自分の糧となっていきます。ですから高校生の皆さんも、失敗を恐れずに、今のうちにどんどん失敗しておいてほしい。そうすれば社会に出てから、多少の失敗でもへこたれず、前に進んでいけるのではないかと思います！



Q. 会社員から社長になる転機は？

A. 小さい頃からの夢は全然ブレていなくて、専門学校時代には「モノづくりで事業を起こす(会社を営む)」という目標を決めていました。そのために必要な知識と経験を、いろんな会社にお世話になりながら、着々と蓄えてきたということになります。就職した会社でいろんな仕事を教えてもらい、3つ目の会社で自分の目標に必要なキャリアをすべて身に付け、今なら自分で会社が作れる!と思い、独立起業しました。

Q. 社長もいいけど
やっぱりデザイナーがいいなって
思わない？

A. 社会に出て仕事をしてみて、「営業が好き・得意」ということに気が付いたんですね。だから今は、「デザインがわかる、営業兼社長」をウリにできるわけです。そのおかげでお客さまと同じ言葉・目線でデザインの会話をしながら営業ができる。自分の向き不向き、得意不得意は、実際に社会に出て仕事してみないとわからないこともあります。社会でいろんな経験をしてこそ、進みたい道を自分で自由に選んでいけると思います。



Q. 今の仕事に
興味を持ったのはいつ？

A. モノづくりに興味があったのは、小1のときです。父の経営する会社がモノづくりの得意な会社で、そんな父に憧れたのがきっかけ。家具に興味があったのは、高校の頃に観た映画の影響。映画に登場するインテリアや空間構成の美しさに惹かれ、この道に進みました。

Q. 会社を作って
成功するために大切なことは？

A. 私は、「人とのつながり」と「自分で情報を探していくこと」を大切にしています。中学・高校時代や専門学校の友人、仕事で知り合った多くの人とのつながりは、新しい仕事をいただく機会となりました。そして仕事では「誰かと同じようなアイデア」にならないよう、インターネットの情報だけに頼らず、国内外のアンティークショップを見て回ったり、美術書を買って集めたりしています。皆さんの進路選択も同様で、人との交流や、自分で情報を探していくことが大事なのではないかと、私は思います。

